

フィールド便り

地域の人々との共働による 水域環境保全

神戸女学院大学人間科学部

環境バイオサイエンス学科 張野 宏也

環境保全を考えた時、まず思い浮かぶのは環境省そして地方自治体における環境行政である。最近では、それに加えて1998年3月に成立した特定非営利活動促進法により設立された地域住民による特定非営利活動法人（NPO）の活動が脳裏に浮かぶ。

活発に行われている地域住民による環境運動の原点は、足尾銅山鉍毒事件の原因究明そして銅山廃止に向かわせた住民運動である。その後、公害病、石油コンビナート建設反対運動、高速交通公害などの反対のため、あらゆる地域で一般市民、農漁民層、自営業層が中心となった住民運動が活発化した。この住民運動は生活や生産の拠点に関わる直接的利害の防衛のために行われた。しかし、環境庁の設置による規制の強化や下水道整備の拡張により、環境が改善され、加害者と被害者が明確に存在していた公害時代から、生活排水や農業汚染に見られるように、加害者と被害者は特定できず、どちらも一般の市民である、環境問題に変わってきた。それに伴い活動も、住民運動から市民運動に移行した。市民運動とは、持続可能な社会の構築にみられるように、普遍的な価値を有する環境の実現を目的として、かつて環境関係の仕事としていた専門職者や高学歴層が中心となり行う環境改善運動である。この団体のいくつかは特定非営利活動法人（NPO）となり、さまざまな場で活躍している。

特定非営利活動法人（NPO）として、全国レベルで環境保全活動を行っている“森は海の恋人”は、森に育つ落葉樹林からの落葉が腐葉土となり、鉄イオンと結びつき川に流れて行

く。それが海に到達することでプランクトン類を育み、プランクトン類をエサとしているカキなどの水産資源を豊富にしていることを解明し、森は海にとって重要な存在であるということを提案した。活動の柱として、森づくり、環境教育、環境保全およびまちづくりを掲げ全国的に展開している。この活動と考え方は学問的にも認められ、森里海連環学として京都大学農学部を中心として講義が行われている。

神戸女学院大学の位置している西宮市においても、多くの市民団体が活発に活動している。そのなかでも著者が幹事を務めている“武庫川流域圏ネットワーク”と“武庫川市民学会”を紹介する。“武庫川流域圏ネットワーク”は市民の立場から、武庫川流域圏に関する各種情報の共有と発信を行い、安全・安心で魅力的な武庫川づくり、まちづくりを目指すことを目的として、2011年に設立された団体である。現在神戸女学院大学、環境・バイオサイエンス学科を含む14団体が団体会員として、約100名の住民が個人会員として加入している。この団体は、1. 武庫川流域圏で活動する諸団体の活動・研究情報の収集と共有化、2. 市民参加を呼びかけて、武庫川の清掃をしながら、自然や文化を学ぶ、3. 会員の活動報告やフォーラムの開催を活動目的として掲げており、特に武庫川の清掃は、中学生が大勢参加し自ら自然に親しみ環境を学習する良い機会となっている（図1）。“武庫川市民学会”は、武庫川流域圏および関連するあらゆる自然現象や社会現象について自ら探求し、その知識・成果を広く社会に伝え多くの市民がそれを共有することにより、人と自然が共生したより豊かな武庫川を創る場とすることを目的として設立された団体であり、武庫川流域圏および関連する自然現象や社会現象に関する学習・調査・研究、研究発表会、学会誌を刊行している。

このように、環境問題の変遷とともに、市民運動も形を変えてきた。現在では環境行政に関

与して、持続可能な環境の構築をサポートしている市民団体の役割は大きい。しかし、多くの市民団体は、活動となる主たる担い手が高齢化しているという大きな問題を抱えている。現

場でしっかりと環境学習を体験した人材の育成が、これからの市民活動推進の大きな課題となるであろう。



図1 武庫川での清掃活動
(武庫川流域圏ネットワーク代表山本義和先生より写真提供)